

鳥海ダムだより

国土交通省 東北地方整備局 鳥海ダム工事事務所

第86号

2020.10.27
発行

本体施工に向けたCSG（※）の試験施工を行っています。

鳥海ダムでは、日本で開発された新しい型式の「台形CSGダム」を採用することとしており、試験施工は、実際に使用する材料と施工機械を用いて、施工性を確認するとともに、施工仕様（転圧する回数等）や使用するセメント量に応じたCSGの強度を決定するために行うものです。

ダムサイトでの材料採取から始まり、分級・曝気（大玉の除去と含水量の低下）を進め、現在は、法体橋手前に設けた試験ヤードで、実際にCSGを製造・打設しながら各種試験を行っているところです。

現地での試験は11月上旬までかかりそうな見込みです。雨が降ると出来ない試験が多いので、日々の天気を気にしながら、必要なデータ収集を進めています。

鳥海山の初冠雪が確認され、百宅にも雪の足音が聞こえて来そうです。
良い天気が続きますように。。。(>_<)



分級(自走式スクリーンによる大玉の除去)



土質改良機によるCSG製造



打設時の施工性確認(振動ローラによる転圧)



転圧後の密度測定(砂置換法)

(※) CSGとは、「Cemented Sand and Gravel」の略で、直訳すると「砂と礫をセメントで固めたもの」。鳥海ダムのダムサイトには河床砂礫が厚く分布しており、基礎掘削時に大量に発生します。これらを堤体材料として有効活用することにより、近隣の山を切り崩して材料を採取する必要がなくなり、コストや環境負荷の低減が図られます。

流量観測の作業を体験しました



袖川発電所前では船に乗って観測



百宅川では徒歩で川に入りました

流量観測とは、河川の形や流れる水の速さを計測し、河川の流量を算出する作業です。河川の管理やダム建設を行う際に必要となる「水文観測作業」で、鳥海ダム工事事務所では毎年これを業務委託しています。

この作業を、10月8日(木)に体験してきました。川幅や水深が大きい袖川発電所前では船に乗って作業をし、また、浮子を使っての流速測定をしました。比較的水深の浅い百宅川では徒歩で川に入るなどし、作業を実施しました。

なかなか大変な作業ではありましたが、無事水深や流速の計測を行い、流量観測作業の手順を知ることができ、とても良い経験になりました。

(体験者:調査設計課 吉田技官)

国際教養大学の学生に講義を行いました ～鳥海ダム建設事業の概要について説明～

9月25日(金)に国際教養大学の学生2名に対し、事務所内にて鳥海ダム建設事業の概要説明(出前講座)を行いました。

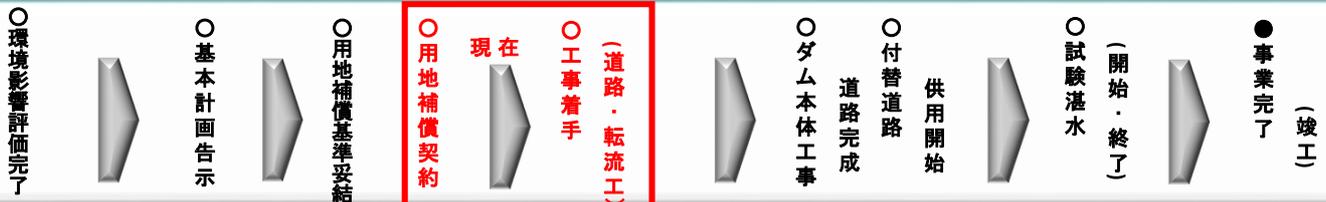
当日の講師は遠藤技術担当副所長ならびに佐藤事務担当副所長が努め、大規模災害への対応やインフラ整備など整備局業務を紹介後、鳥海ダムの目的や事業効果のほか用地取得の進捗状況等について、二人が理解しやすいよう丁寧かつ熱心に説明しました。

説明した内容は、未来を担う若者にとって参考になるとともに、鳥海ダムをはじめとするインフラ整備の必要性について、充分認識して頂けたものと思われま



両副所長による説明

鳥海ダム建設事業の流れ(今後の予定)



編集後記

朝夕めっきり冷え込む日が増えてきました。車での移動中にふと周囲を見渡せば、田んぼの稲刈りもほとんど終わったようです。また、10月といえば新そばの季節、紅葉の季節でもあります。出かけるには気持ちの良いシーズンではありますが、無理しないよう、また、寒さで体調を崩されることのないよう気をつけたいものです。

安全・安心の子吉川に抱かれて、より豊かに暮らせる、わたしたちの郷土のために。

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム工事事務所
〒015-0885 秋田県由利本荘市水林408番地
TEL. 0184-23-5120 FAX. 0184-23-5451
ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/>
e-mailアドレス thr-chokai01@mlit.go.jp